

町長の

# あやめ日記

## 納涼まつり・商工会夏まつり



8月15日、気温33℃の暑さの中、わが町では二つのビッグイベントが催されました。

まずは「商工会夏まつり」が、いこまい館東側の特設会場でどろんこまつりから幕を開けました。

湿度も高かったため、熱中症を心配した商工会スタッフの皆さんの配慮により、前倒しで進行していただきました。僭越ながら、私もどろんこを体験させていただき、幼少時代にタイムスリップしたようでした。

そして、青々と茂ったいこまい館の芝生広場に場所を移して、「納涼まつり」と展開します。

この町を故郷とする人たちがお盆に帰郷し、親や親戚、旧友たちと昔話に花を咲かせる。徐々に日が暮れる中、そんな光景をまつり会場のいたるところで目にしました。

芝生広場の櫓を中心に、色とりどりの浴衣を着た子どもたちが楽しそうに踊っている姿を見て、彼らが大人になつた将来、自分の子どもと一緒にこのまつりに参加する、そしてその子どもも同じように：と思いをめぐらせ

るうちに未来永劫この集いの場を絶やしてはいけなくと強く感じました。

最後の締めくくりは、待ちに待った商工会花火大会です。

800発もの花火が、見ている人たちの顔を鮮やかに照らしていました。

世界一精巧で華麗といわれる日本の花火は、暑さを忘れさせてくれる、まさに「納涼」です。

この日、ご尽力いただいた商工会をはじめとした関係者のみなさまには、感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございます。

知ってみよう

# いろいろな国

## インドネシアの季節

日本では春、夏、秋、冬の四つの季節がありますが、インドネシアでは雨季と乾季の二つしかありません。

11月から5月までは雨がよく降る雨季で、雨の降らない6月から10月までは乾季です。

つまり、インドネシアの季節は、雨が降るか降らないかによって二つに分けられ、それ以外は変わらないのです。

例えば、日本の植物は、葉が生い茂る様子、散ってしまった様子、花が咲いた様子など、とても動的な感じですが、インドネシアではそれほどの変化はありません。葉は一年中緑です。

1年中暑いため、体力が必要なインドネシア人は、甘い飲み物が好きです。そして、日が昇る時間に負けないように、5時に起きます。その

ため、インドネシア人には昼寝をする習慣があります。

日本では四つの季節があるため、それぞれの季節ごとの衣類が必要ですが、二つの季節しかないインドネシアでは、1年を通して4〜5枚の服を持っていれば十分だと言えます。

インドネシアは2005年愛知万博一市町村一国防産シブ事業の交流国です。



ヒンドゥー教で神の使いとされる「ガルダ」

筆者プロフィール

RONI

スラバヤ市出身。平成18年4月から名古屋大学大学院で日本語を研究中。